

JEITA



# 電子情報産業の世界生産見通し

2012年12月

一般社団法人 電子情報技術産業協会

# 電子情報産業の世界生産見通し

## 目 次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| はじめに                       | 3  |
| <hr/>                      |    |
| Part1 総論                   |    |
| 電子情報産業の世界生産見通し             | 4  |
| 日系企業の世界生産見通し               | 6  |
| 電子工業の国内生産見通し               | 8  |
| 世界生産額210.3兆円の内訳 ※2012年見込み  | 10 |
| 日系企業生産額37.5兆円の内訳 ※2012年見込み | 11 |
| 日系企業の位置づけ                  | 12 |
| 電子情報産業の地域別ウェイト(生産/需要)      | 14 |
| <hr/>                      |    |
| Part2 各論                   |    |
| 電子情報産業の分野別品目構成             | 16 |
| 薄型テレビ                      | 17 |
| 映像記録再生機器                   | 18 |
| 撮像機器                       | 19 |
| カーAVC機器                    | 20 |
| 携帯電話                       | 21 |
| サーバ・ストレージ                  | 22 |
| パソコン                       | 23 |
| 液晶モニタ                      | 24 |
| 磁気ディスク装置                   | 25 |
| プリンタ                       | 26 |
| イメージスキャナ/OCR               | 27 |
| 電子タブレット端末                  | 28 |
| 電気計測器                      | 29 |
| 医用電子機器                     | 30 |
| 電子部品                       | 31 |
| ディスプレイデバイス                 | 32 |
| 半導体                        | 33 |
| ITソリューション・サービス             | 34 |
| <hr/>                      |    |
| Appendix                   |    |
| 電子情報産業の世界生産額(2010年実績)      | 35 |
| 電子情報産業の世界生産額(2011年実績)      | 36 |
| 電子情報産業の世界生産額(2012年見込み)     | 37 |
| 電子情報産業の世界生産額(2013年見通し)     | 38 |
| <hr/>                      |    |
| 調査概要                       | 39 |

## はじめに

2012年は、世界的に各国指導者の選挙等があり、日本をはじめアメリカ、中国、ロシア、フランス、韓国、台湾等、多くの国・地域で新体制または再任となり、今後数年間の世界を左右する節目の年となりました。一方、世界経済は、IMFの10月改定見通しで見ると、3.3%成長と7月時点の見通しより0.2ポイント下方修正されました。修正幅は小幅ですが、2010年5.1%、2011年3.8%と2012年は減速傾向、そして2013年は、3.6%と緩やかな回復が予測されています。同機関によれば、わが国経済も2012年2.2%、2013年1.2%とプラス成長となるものの、欧州債務危機の長期化や新興国経済の鈍化、加えて中国経済の構造問題の懸念等を背景に引き続き厳しい状況となっております。

電子情報産業の世界生産見通しによると、世界生産額は、2012年210.3兆円(前年比3%増)、2013年221.7兆円(同5%増)とスマートフォンや電子タブレット端末の需要増加に伴って電子部品・デバイスも増加すると期待し、緩やかな回復を見込むものの、2008年の222.8兆円を若干下回る水準にあります。このうち電子工業の国内生産額は、2013年12.1兆円(同1%増)と規模的には過去のピークであった1997年(25.4兆円)に比べ半減の水準ですが、伸び率的には2010年以来3年ぶりにプラスに転じる見込みです。日系海外生産の伸びは2013年20.8兆円(同2%増)と国内生産を上回っており、海外生産比率は63%と生産構造が海外にシフトしていることが伺われます。特に電子機器の海外生産比率は、2009年69%から2013年73%と4ポイント上昇と見通しております。

当協会は、ITを活用した社会全体のスマート化による安心・安全で豊かな暮らしと低炭素社会実現に貢献していくため、国際競争力強化と新たな事業の創出を共通の目標として活動を推進しております。このため、今年は、さらなるITの活用が期待される「ヘルスケア・メディカル」と安心・安全な生活や社会インフラを支える「センサ」を取り上げ、調査いたしました。加えまして、「センサ」調査の一環でJEITA会員並びに会員外の85社にご協力を頂き、「センサ・グローバル状況調査」により2009年から2011年の出荷実績を把握いたしました。本調査によりますと、数量・金額共に2年連続のプラス成長と厳しい環境の中で堅調に推移しております。

今後も内外のご意見を広く受け止め、改善と拡充を重ねることにより、産業界にとどまらず、広く一般の皆さまに活用していただけるよう、毎年ご報告していきたいと思っております。この『電子情報産業の世界生産見通し』(赤本)が、少しでも内外の皆さまのお役に立てば幸いです。

2012年12月

一般社団法人 電子情報技術産業協会  
専務理事 半田 力

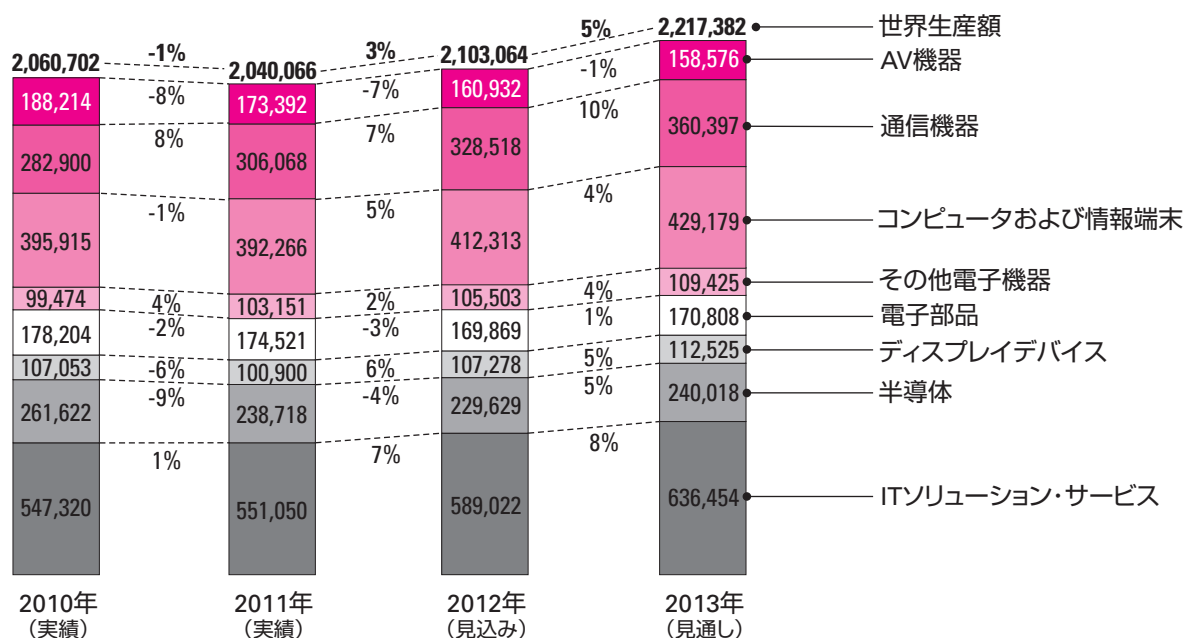
## 電子情報産業の世界生産見通し

電子情報産業における2012年の世界生産額はスマートフォンやタブレット端末の市場が急速に拡大し210兆3,064億円(対前年3%増)と見込んだ。今後は、あらゆる産業でのIT融合の進展と新たな市場変化へ対応するためのIT投資の増加が期待できることから、2013年には221兆7,382億円(同5%増)と2年連続のプラス成長を見通した。

2012年の世界経済は、欧州債務問題の長期化により景気後退の危機に直面している。欧州向け輸出の減少は中国での供給過剰の顕在化に繋がり経済は減速した。しかしその一方で、スマートフォンやタブレット端末の市場拡大は、データトラフィック量の増大を加速させ先進諸国では高速通信網の発達を促している。また、インターネットを介し多様なニーズを取り込んだ新たなサービスや、ソーシャルネットワークサービス(SNS)が認知され広がることで、さらにその裾野は新興諸国へも拡大しつつある。このような中、2012年の電子情報産業(電子工業とITソリューション・サービスの合計)の世界生産額は、210兆3,064億円(対前年3%増)、うち電子工業(電子機器と電子部品・デバイスを合わせたハードウェア)の世界生産額は151兆4,042億円(同2%増)と2年ぶりのプラス成長と見込んだ。

2013年の世界経済は、欧州の経済不安から減速基調にあるものの、米国経済の回復や新興諸国での金融緩和・財政政策に支えられ緩やかな持ち直しが期待される。電子情報産業では、社会インフラのクラウド化、センサで瞬時に収集した大量データを分析・活用する技術進歩、高速通信網と情報ネットワークの基盤強化、セキュリティ対策強化などにより、あらゆる産業でのIT融合とそれを契機とする産業融合が進展していくことで、市場変化の機運が高まりIT投資の増加が期待できる。通信機器をはじめとする電子機器市場の拡大、ITソリューション・サービスの拡大が寄与し、2013年の電子情報産業の世界生産額は5%増と2年連続プラス成長を見通した。これは2008年の222兆円の規模に迫り回復傾向にある。

■電子情報産業の世界生産額推移



## 日系企業の世界生産見通し

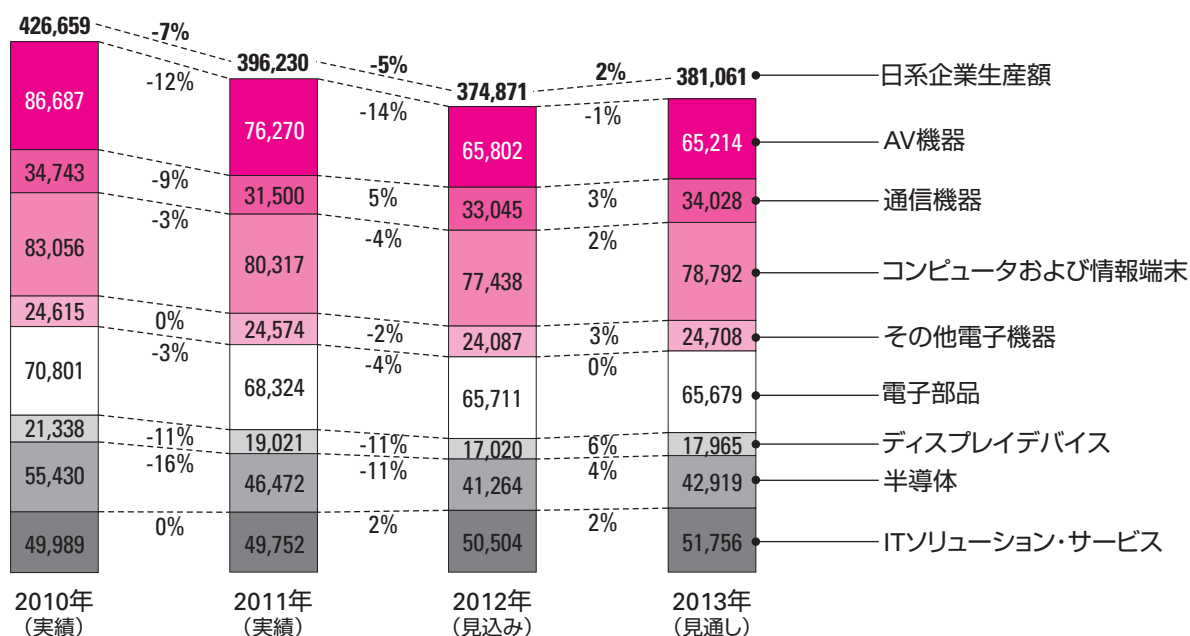
電子情報産業における2012年の日系企業生産額(海外生産分を含む)は、37兆4,871億円(対前年5%減)と2年連続のマイナスを見込んだ。日系シェアは2012年で18%と低下する傾向にある。日系企業はインターネットを介した新たなニーズへの対応と急速な市場変化に対応する製品・サービスの提供が急務となっている。2013年はキーデバイスを生かした製品進化に期待し、38兆1,061億円(同2%増)と微増を見通した。

日系企業の市場環境を見ると、歴史的な円高ドル安、ユーロ安、輸出や生産の減少などが企業業績にも影響を与え競争力低下の要因となっている。また、インターネット活用が前提のスマートフォンやタブレット端末の市場拡大により、クラウドサービスが個人ユーザにも広がった。同時に、製品の機能追加がインターネットを介して容易になったことで、従来型製品を取り巻く市場環境が大きく変わり、その中で日系企業は苦戦を強いられている。しかし、さらなる快適さや安心を目指して製品は進化しつつあり、中でも日系企業の得意とするイメージセンサ、フラッシュメモリ、高精細ディスプレイなどのキーデバイスが製品の中核を支えており、その進化を後押ししている。2012年の世界生産に占める日系企業の生産額(海外生産分を含む)は、

電子情報産業で37兆4,871億円(対前年5%減)、うち電子工業で32兆4,367億円(同6%減)と見込んだ。

今後は、個人分野ではクラウド化に対応したネットワークとの親和性や処理スピードの向上、従来型製品の優位性や特徴を生かした新たな製品融合と差異化が進んでいく。産業分野では、ビッグデータ処理と活用、セキュリティ強化、震災を契機とした事業継続計画(BCP)整備への機運が高まっていく。併せて新たな製品を支える半導体や電子部品の分野でさらなる技術革新が期待できる。しかし、日系企業は円高や競争激化により、海外直接投資を増やしグローバル生産体制を強化していくものの、過渡期として苦戦しており、2013年の日系シェアは17%に低下するものと見通した。

■日系企業の生産額推移



(単位：金額＝億円，対前年伸び率＝%)

## 電子工業の国内生産見通し

電子工業における2012年の国内生産額は、12兆425億円(対前年8%減)と2年連続のマイナスを見込んだ。円高継続による輸出の不振と国内での製品構成の変化は国内生産に大きな影響を与えた。2013年では12兆1,283億円(同1%増)と3年ぶりとなるプラス成長を見通したが、国内生産を取り巻く環境は厳しいことが予想される。

国内経済は復興需要の期待はある中、依然として厳しい状況が続いている。電子工業でも2012年当初はエコカー補助金による自動車需要の回復、デジカメやパソコンの出荷も好調に推移し、前年の震災やタイ洪水の影響から順調に回復しつつあるかにみえた。しかし予想を上回る薄型テレビやレコーダ等の大幅減少など電子機器の苦戦と合わせて、円高継続と競争激化による電子部品デバイス部門の輸出の減少が響き、電子工業における2012年の国内生産額は対前年8%減、なんとか12兆円は維持するものの、2011年をさらに下回り、2007年20兆円の約6割の水準となる、非常に厳しい2年連続のマイナスを見込んだ。

2013年も国内生産を取り巻く環境は厳しいことが予想される。今後も円高が続けば、海外生産・海外への生産委託はさらに加速し、グローバル生産体制への移行が進むことが見込まれる。国内生産は大きな岐路

に立たされており、国内立地のための国の施策が望まれる。また、高齢化社会を見据えた医療・ヘルスケアにおけるIT・エレクトロニクス分野への積極投資や、事業継続のためのIT投資の増加やセキュリティ強化にも期待がかかる。マイナス要因が目立つ国内生産にあってもスマートフォン・タブレット端末の需要拡大を受けたディスプレイデバイス(同5%増)、健康ニーズの高まりを受けた医用電子機器(同5%増)等のプラス成長が見込めることから、電子工業における2013年の国内生産額は前年比1%増のプラス成長と見通した。日系企業の国内生産比率は37%となり「ディスプレイデバイス」(日系国内生産比率75%)、「電気計測器」(同74%)、「サーバ・ストレージ」(同72%)、「医用電子機器」(同72%)、「半導体」(同72%)など、高度な信頼性や品質を要求される分野では、高い国内生産水準が維持されるものの、比率は低下傾向にある。

■電子工業の国内生産額推移

